

平成26年度 東北ブロッククラブネットワークアクション2014

開催報告

会場：「ホテル福島グリーンパレス 瑞光西の間（2階）」

内容：

[1日目]

■開会式

■日本体育協会からの情報提供

■講演 「育成プラン2013が目指す理念と方針」

講師 （公財）日本体育協会地域スポーツクラブ育成専門委員会

中央企画班 班長 松田 雅彦 氏

■座談会Ⅰ 「自立・自律に向けた失敗事例とその分析」

コーディネーター 浅沼 道成 氏（岩手大学教授）

パネラー スポーレおおがた：佐野 潤 氏

NPO法人とざわスポーツクラブふれスポc ha³：今井 徹 氏

NPO法人エフ・スポーツ：相澤 勝博 氏

■グループワークⅠ「自立・自律に向けた課題の抽出・抽出した課題の分析」

[2日目]

■座談会Ⅱ 「自立・自律に向けた成功事例とその分析」

コーディネーター 浅沼 道成 氏（岩手大学教授）

パネラー NPO法人スポネット弘前：鹿内 葵 氏

いちのへサンビレッジクラブ：西館 敦 氏

スポーツコミュニケーションかくだ：遠藤 良則 氏

■グループワークⅡ「自立・自律に向けた課題解決の方策」

■グループワーク発表・まとめ

【概要】

東北ブロックでは、「育成プラン2013を活用した、総合型地域スポーツクラブの自立・自律を考える！」を2日間の共通テーマとして開催しました。

基調講演では、「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」が目指す理念と方針を学び、グループワークに向けた座談会や全員参加のグループワークを通じ、各クラブにおける課題の抽出とその解決の方策について積極的に取り組みました。

最後に、全14グループごとに課題とその解決策を発表することで、参加者全員が情報の共有を図ることができ、各クラブの自立・自律に向けた取り組みについて考えることができました。

【内容】

【1日目】

【講演】「育成プラン 2013 が目指す理念と方針」

「育成プランが目指す理念と方針」と題して、松田雅彦氏（日本体育協会地域スポーツクラブ育成専門委員会中央企画班班長）をお迎えして、育成プランの作成に関わる背景や理念について説明いただきました。総合型スポーツクラブの理念について、種目の総合性や人材の総合性の視点から、会費を納入してどの種目でもできる良さや営利目的のスポーツ団体と異なり、主体となる地域住民が「サービスを受ける側」にも「する側」にもなれる総合型スポーツクラブの良さについて話されました。また、学校現場で指導されている立場でもあり、学校と地域おけるスポーツライフの関連性や学校組織を総合型スポーツクラブへ置き換えて考えるクラブの仕組みづくりについても話されました。



【座談会 I】

座談会 I では、グループワークへつなげるために、浅沼道成氏（岩手大学教授）をコーディネーターとして、秋田県「スポーレおおがた」、山形県「NPO法人とざわスポーツクラブふれスポc ha³」、福島県「NPO法人エフ・スポーツ」より、自立・自律に向けて「うまくいかなかった事例」についての発表がありました。その中では、行政に依存しない取り組みを検討しているが実際には難しく、行政と連携して事業を行うようにしたことや年会費を徴収してすべてのプログラムを行っているが、財源が不足していることも挙げられました。また、日本スポーツ振興センターのくじ助成が終了するとクラブの事業規模を縮小することも検討しているなどクラブの課題について話されました。



【グループワーク I】

グループワーク I では、参加者を14グループに分け各班にリーダーを配置し、板垣晶行氏（福島県クラブアドバイザー）をコーディネーターとして進行了ました。

まずグループ全員で各クラブの課題について自由に発表していただき、それを付箋に記載し多くの課題をプールできました。それを育成プラン2013の自立・自律に向けた7つの取り組み別に分類し、さらにこの7項目を緊急度と重要度の視点から分析することで、特に注目すべき3項目を選択しました。さらにこの3項目に関する個別課題を緊急度と重要度の指標で分類し、1日目の最終ミッションである「個別課題ワースト5」を選択しました。これには概ね「財源不足」「運営体制や役員の問題」「クラブマネージャーなどの人材確保」などが挙げられます。



[2日目]

【座談会Ⅱ】

座談会Ⅱでは、青森県「NPO法人スポネット弘前」、岩手県「いちのへサンビレッジクラブ」、宮城県「スポーツコミュニケーションかくだ」より自立・自律に向けて「うまくいった事例」について発表がありました。

その中では、デパートの一角でプログラムを行ったり会議資料にミッション・ビジョンを入れてスタッフの共通理解を図った事例やプログラムを多志向にして競技性の高めることによって知名度を向上させた事例、年会費を月会費にすることによって収益を上げた事例、スポーツの初歩段階において用具の準備が必要なく手ぶらで参加できるようにしたことや地域の強みを活かした事例が紹介されました。



【グループワークⅡ】

グループワークⅡでは、前日にグループ協議で選択した「個別課題ワースト5」について、その解決に向けた方策をグループメンバー全員で出し合いそれを付箋に記載しました。次にその付箋に記載された方策を「Can」「Must」「Want」の指標で分類し、グループとしての解決策の考え方についてメンバー全員で共通認識を図りました。

また実際には各クラブにおける課題やその解決策は異なる場合もあるので、所属クラブの課題や解決策についても考えて頂き、これを「Myクラブのシート」に整理する作業にも挑戦しました。

最後のまとめは、全14グループより個別課題ワースト5とその解決策について発表していただき参加者全員で2日間の成果を共有できました。



【まとめ】

今回のクラブネットワークアクションでは、総合型クラブの自立・自律を参加者全員が共通の認識で且つ具体的に考えて頂くための方策として、基調講演から座談会やグループワークなどすべてのプログラムが、一貫して「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」の考え方を活用しました。

基調講演では育成プラン2013が目指す理念と方針を学び、2回の座談会ではグループワークに活かせる事例を発表して頂き、メインであるグループワークでは育成プランに示された7つの取り組みを基軸に積極的に取り組んで頂きました。

これにより参加者が同じ視点で各クラブの自立・自律に向けた意見交換や情報交換ができたのではないかと思います。今回ネットワークアクションで得た情報やアイデアを今後のクラブ運営に活かしていただきたいと思います。

東北ブロッククラブネットワークアクション 2014

実行委員長 高橋 三郎